

## 未来創造・地域社会部会への意見（抜粋）

## 1 「若年女性の県内定着・回帰の促進」について

意見	発言者
<p>若い人が秋田からでていく要因となるような価値観やありかたについては、やはり率直に真剣に向き合っていく必要があると感じました。</p> <p>先日、拝聴した講演によると、県外志向の女性たちは、チャレンジできる、成長ができる、働きがいがある、人が活かされる（人的資本経営）、リベラル志向、前例主義ではない、やはりそういうキャリアや仕事場を求めている印象でした。そういった若い女性達の望む生き方を知った上で、次に大事なのは、それをふまえて「では私達はこういった社会、組織、働く環境をつくっていったらいいのか、またつくりたいのか、そのビジョン解像度をあげていくこと」その本当の目的にフォーカスすることが大事だと思います。「若い女性の定着回帰という課題のためにこれをする、若い女性をとどらせるためにこれをする・・・あれをする、」というのは課題解決のために大事ではありますが、あくまで原因論のアプローチなので、わくわくする未来を県民でつくっていく！という力や県民の共感を生み出すのだろうかと感じる部分もあります。</p>	石田万梨奈委員
<p>若年女性が定着しない本当の理由は、県外に出ていくことを決めた女性に聞くしか方法がないため、県外に就学・就職した女性にアンケートを取得するべきである。</p> <p>いくら県内に定着した女性へアンケートを取得したり、明るいライフスタイルを発信したりしても、秋田県にネガティブな印象がある女性からしたら、ごく少数の成功事例・特殊事例としか感じられない可能性があるため、根本的な原因を突き止める方向に力を入れるべきである。</p>	鈴木了委員
<p>秋田県内若年層が一時的に高校、大学を県外に選択することデメリットではなく、秋田の良さを再確認し、好きになる大きなチャンスだと思う。その後、秋田県へのAターン（Uターン、Iターン、Jターン）をめざし、秋田県出身者もそれ以外の方も、みんなで秋田を応援し、秋田の魅力を共有。全国規模で秋田の魅力を発信し定住移住に繋げる。</p>	能登祐子部会長
<p>東北で他県の状況はどうだろうと思い調べてみた。R4の青森の女性人口と比較したところ秋田：青森、「20～24才13,112人：19,581人」「25～29才14,459人：20,560人」とやはり秋田は少な目。特に結婚適齢期と思われる25才～29才になると更に少なくなる傾向。キャリア志向になって県外へ流出している可能性もあるが結婚して県外へ出ていく方も多そう。この面から考えると女性だけの問題ではなく結婚相手となるような異性との出会い（収入、家庭環境等条件が良くない？）が少ないのかもしれない。（⇒現代若年女性と結婚するには男性教育や市民の価値観の改革は必須。女性の「嫁」扱いなど問題多数）一方、仕事を見つけて秋田で永住したい場合、給料の水準は他県より低いのに家賃・光熱費は首都圏並みというデメリットがある。収入が安定するまでの短期間でも空き家活用や公営住宅など若者向けの住宅サービスは喜ばれるのではないかと。公共交通が不便なので秋田で働く女性にとって車は必需品。車両購入資金援助やカーシェアなどの優遇があれば良いのではないかと。車を持たない人には自転車のレンタルや職場から近い徒歩圏内に住居が借りられる情報サービスなどがほしい。</p>	原田美菜子委員

## 2 追加・補足の御意見等について

### 目指す姿1 新たな人の流れの創出

No	項目	意見	発言者
1	首都圏からの移住の促進	格安の秋田ツアー等、まずは秋田に行く機会を提供する。秋田で実際に過ごすことで秋田の良さを知ってもらおう。	加藤未希委員
		Aターンの促進を推進する。 移住者から秋田の魅力を聞き、秋田の魅力について共有する機会を設ける。	能登祐子部会長
		東京23区にこだわらない、副都心も視野にした関係人口や移住促進を目指す。	能登祐子部会長

### 目指す姿2 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現

No	項目	意見	発言者
1	結婚・出産・子育てを前向きに捉える気運の醸成	保育園や幼稚園と連携し、子どもと交流する機会を小中高大学で経験する。	加藤未希委員
		出産、育児は不安も多く、近隣のお付き合いも重要となる。小規模な地域コミュニティ拠点が必要。行政の伴走も視野にゆるい連携空間を構築。	能登祐子部会長
2	出会い・結婚への支援	・飲食店側が定期的に独身者限定イベントを企画。開催費用を助成する。 ・今の20代の方々の結婚観が分からないので、まずどのような結婚・暮らしを希望しているか知りたい。(アンケートの実施、ワークショップ開催など)その上で結婚したい人の割合や結婚したい人が望むことなどを調査し、それに基づいた政策を検討するべきではないか。50代が考える結婚観とは違うかも、と不安があるので意見がしづらいが、結婚しないほうが楽だと考える人も少なくないと思う。そういった層が結婚したくなるような地域づくり、教育というものが必要なのではないかと。	加藤未希委員 原田美菜子委員
		出会いの場(サイト)の充実をはかる。	能登祐子部会長
3	安心して出産できる環境づくり	・出産したら助産師が訪問(赤ちゃん訪問)はあるが、妊婦さんへの訪問もあればいいと思う。 ・女性は子どもを産んで当たり前と考えがちが大変なリスクと向き合っているもの。出産後の労いの有無や病院でのスタッフの態度一つで子育てに躓いてしまうこともある。出生率の低い県だからこそ、出産という大事な場面は家族～医療関係者まで徹底して母子尊重の対応で新たな生命を迎え入れてほしい。これもまた中高生～大人への教育が必要とされると思う。	加藤未希委員 原田美菜子委員
		里帰り出産など、出産環境が顕著に狭まっている。産院の受け入れ等の充実が必要。	能登祐子部会長
4	安心して子育てできる体制の充実	産後ケアの助成があるところはとてもいいと思う。産後ケアは増えてきているが数が少ない為、予約がなかなか取れないと耳にする。市の子育て広場がもう少し幅広い支援ができればいいと思う。(助産師がいたり託児ができたり等)	加藤未希委員

### 目指す姿3 女性や若者が活躍できる社会の実現

No	項目	意見	発言者
1	男女共同参画の推進	企業のトップが自ら学び社内に発信することが大事だと思う	能登祐子部会長
2	あらゆる分野における女性の活躍の推進	女性リーダーを増やす。	能登祐子部会長
3	若者のチャレンジへの支援	高校生から起業や働くことについて学ぶ機会を学校側でも提供ができる支援があるといいと思う。	能登祐子部会長

### 目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築

No	項目	意見	発言者
1	優しさと多様性に満ちた秋田づくり	次代を担う子どもたちが心身ともに成長できるように地域全体で子育て支援に取り組む	能登祐子部会長
2	地域住民が主体となった地域コミュニティづくり	とても個人的な意見ですが、集合住宅については管理会社や大家が仲介してほしい。いずれは離れる可能性もあるのでそれほど地域との関わりを持ちたくない場合もある。しかしながら安全面やコミュニケーションの面から考えると地域コミュニティから100%離れるのは多少なりともデメリットとなるので、「積極的な地域コミュニティ」とは管理会社を通じたコミュニケーションがのぞましい。	原田美菜子委員

### 目指す姿5 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成

No	項目	意見	発言者
1	脱炭素化に向けた県民運動の推進	「なぜ脱炭素が必要なのか」といった基本的な情報について今こそ普及啓発することで脱炭素・再エネ導入促進への理解が進み取り組みも増えるのではないかと。企業の脱炭素への取り組みについては県内企業のローカル発信であってもグローバル社会の一員として評価される様な秋田県独自の公的な評価も励みになるのではないかと。	原田美菜子委員